



創造する日本学：世界が共感する「日本文化」の創造的価値の探求

これまでの活動実績・成果の概要

1) 国際的な交流による研究・教育の推進

(1) 東アジア日本研究者協議会

2016年度から始まった日本、中国、韓国、台湾の日本研究者が一堂に会する国際会議で、最新の研究について討論するパネルを、各テーマごとに構成者が自ら申し込み開催することができる。本プロジェクトでは、第1回～第4回まで、毎回、海外の研究者を発表者やコメンテーターに組み込んだ国際共同研究パネルを複数、開催して新しい「日本学」を発信した。主なパネルとして、「日本語から見る日本文化」に関するパネルを2回、「近代日本の空間と移動」に関するパネルを3回、開催した。

(2) シカゴ大学や翰林大学校での国際会議・ワークショップの開催

2017年には韓国・翰林大学校において国際シンポジウムを開催して、グローバルな観点から日本の空間認識や移動の特徴を明らかにした。2019年からはシカゴ大学と東京大学が開催してきた大学院生の研究発表ワークショップに参加し、プロジェクトの教員により指導されている院生が日本学に関する研究を発表するとともに、これを起点に3大学の教員が共同で教育を行い、国際的な人材の育成を図っている。

2) 日本文化・歴史の中に普遍的な意義を見出し理論化した研究成果（代表的なもの：右の2つの図を参照）

これまで地域研究の枠に留まりがちであった日本研究を、グローバルな視点から見直すことによって一国の歴史や文化から解放し、普遍的な意義を見出して、新たな学術成果を生み出してきた。

(1) 日本語から見た日本文化

日本・中国・韓国・台湾の研究者によって、合同研究が行われ、東アジア日本研究者協議会で2回の国際共同パネルを開催した。その成果の一部は、小野尚之「くびき語法に見る多義のしくみ」(『く不思議』に満ちたことばの世界』開拓社、2017)、同「起点としての「に」の意味」(『言語研究の楽しさと楽しみ』開拓社、2021)といった論文などで公表した。

(2) 近代日本の空間と移動

2017～19年の4年間にわたり、日本・韓国・中国の研究者の共同研究が行われ、代表的なものとして以下の成果を得た。①2017年に韓国・翰林大学校で開催された国際シンポジウム「帝国日本の空間と移動」の成果は、『翰林日本学』第31輯(2017.12)に日本側の3つの論文を特集として公表した。②2018年の第2回東アジア日本研究者協議会で開催した国際共同パネル「戦時期東アジアと帝国日本の空間」の成果は、『年報日本現代史』第23号(2018.12)に特集として日中の研究者による3つの論文を掲載して公表した。

日本語から見た日本文化

日本文化の基層にある調和とは何か



日本文化の基層にある「配慮」という日本に固有の文化価値を、日本語の解析から明らかにする

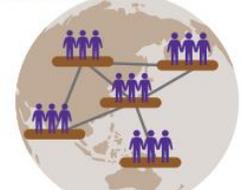
中国や韓国の研究者と共同研究を推進



世界が理解すべき文化価値を創出

近代日本の空間と移動

グローバル化で生じる移民や難民の問題をどうするか



近代における日本人の海外移住・進出の歴史をひも解き、その諸問題を国際共同研究で探求する

現代社会につながる普遍性を求める



移民や難民、文化接触の問題への解決策を提示